

---

# 図書館姫は雨の中

かありい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

図書館姫は雨の中

### 【Nコード】

N2701M

### 【作者名】

かありい

### 【あらすじ】

小柄な中学生、有道由香はいつものように近所の図書館に向かう。図書館を出たそのとき由香はある異常事態に気付く。ここは現実ではない、ここはどこだ、ここは日本なのか。そこに一人の高校生らしき男子が、

「友達を探してほしい」

そう彼から依頼され、協力していくうち事態はますます複雑になっていく。その異界にそびえる一本の塔を目指し、二人は走り出す。そしてそこには大いなる謎が渦巻いていた。

## 序章 c l i m a x (前書き)

この作品はオマージュ作品であり、作者の偏見と見方がかなり反映されたものです。原作をご存知の方はその点をご理解いただきますようお願いいたします。

## 序章 climax

「……わあ」

扉を開けると二人の視界の大半を澄んだ青空が占拠した。足元にはレンガで組まれた地面が広がり、前方に長く横にのびる柵が鎮座している。純白に塗装されたその柵以外、周囲に装飾物は何も見当たらない。直哉と華凜なおよ《かりん》はゆっくりと扉をくぐり、周囲を見渡す。空には雲ひとつ浮かんでいない。見慣れた灰色の空にはない深く、澄んだ青色。華凜は空を見上げながら柵に近づく。直哉は華凜の二メートル程後方でさきほどの扉を怪訝に見つめている。

「……直哉」

華凜はか弱い声で直哉を呼んだ。呼ばれた直哉はツカツカと華凜に歩み寄る。

「……」

直哉の眼下に広大な野原が広がっている。緑に彩られた一面の草原に黄色、橙、ピンクといった鮮やかな花のコントラストが映え、まるで有名画家の絵画のように咲き誇っている。直哉は言葉を失った。

「……直哉。アタシたち、どこにいるの？」

「雲の上」

「うん……だよな」

「……」

二人はしばらく野原を眺めた。お互い黙ったまま目の前の景色を正面にしてじっと立っている。

「……もう……そろそろだな」

長い沈黙を直哉が破った。その声はかすれていて、直哉の顔に皺をつくっていた。

「……うん……ずっと……いっしょにいた……かった」

華凜は服の上から胸をおさえながら言った。二人の呼吸が徐々に荒くなる。華凜は柵に手を掛けて崩れるように膝をついた。直哉は柵にもたれ掛かるように座りこんだ。

「……華……凜」

「直哉……だい……じょうぶ……よ……あんたがいれ……ば……」

小さな風が吹く。冷たい風が。

二人の後方に咲き誇る花たちはまるで死者を弔うかのように美しく靡いた。

FIN

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2701m/>

---

図書館姫は雨の中

2010年10月17日11時36分発行